

令和2年度とちぎ夢ファーレ 実績報告書 (HP用)

団 体 名： 栃木県立栃木農業高等学校農業環境部環境活動班

代 表 者 名： 嵯峨 俊介

会 員 数： 10名

連絡先 (電話)： 090-6229-2205

メールアドレス：

団体 HP の URL：

○この活動を始めた動機 (目的)

2015年9月の関東東北豪雨災害。学校周辺も甚大な被害を受け、二次災害を防ごうと研究を始めた「土砂廃棄物による循環型施工」。翌年には、大学や研究機関と連携しながら、土のうを利用した放置ため池の改修工事に着手しました。

その後、本校に隣接する環境省「関東ふれあいの道」内の整備や自然災害に関するワークショップの開催など、多くの人を巻き込みながら「環境保全」「防災減災」「鳥獣害対策」など、その都度見つかる様々な地域課題と向き合ってきました。

その中で、地域環境保全は行政だけの力では難しいと感じ、かつて当たり前にあった地域ごとの道普請のように、「自分達の生活環境は自分達で守る」というセルフビルドを実施できないかと考えたのが活動の原点です。高校生が主体となって防災・減災・環境保全などの地域協働活動を展開していきます。

○実際に令和2年度に行った活動とその成果 (結果)

月	活動内容
4	学校休校のため活動なし
5	学校休校のため活動なし
6	地域環境整備 (林道整備2回)、在来種の増殖イベントに向けての準備
7	地域環境整備 (ため池整備1回・林道整備1回)、在来種の増殖イベントに向けての準備
8	地域環境整備 (棚田・ビオトープ整備2回)
9	在来種の増殖、イベントに向けての準備 地域環境整備 (林道整備2回、棚田・ビオトープ整備2回)

10	在来種の増殖、イベントに向けての準備 地域環境整備（林道整備2回、棚田・ビオトープ整備2回）
11	協働活動イベント「地域づくり体験 in 栃農」開催（参加者39名） 地域環境整備（林道整備2回）
12	地域環境整備（林道整備1回、棚田・ビオトープ整備2回） 地域づくり意見交換会
1	地域環境整備（棚田・ビオトープ整備2回）
2	地域環境整備（棚田・ビオトープ整備2回）
3	地域環境整備（棚田・ビオトープ整備5回）

令和2年度は、これまで行ってきた林道（関東ふれあいの道）の完成を目指し、定期的に土のうの敷設や沢水排水のための暗渠と石組の施工を行ってきました。11月に開催した地域協働イベントの際に、地域住民や中学生らの手によって無事に目標区間を完成することができました。

完成した林道沿いには、潜在自然植生を考慮した植栽活動もはじめました。大平山内で採取したシャガやヤブランなどといった鑑賞価値の高い山野草を、本校温室内で株分けや挿し木によって増殖しました。苗が完成次第、順次移植しています。

また、林道整備が一区切りしたこともあり、次なる地域環境整備の舞台として本校敷地内にある農業用ため池周辺の活動を開始しました。元々は地域の水田かんがい用のため池でしたが、学校周辺の宅地開発によって水田が激減、近年は外来生物が住み着くような放置ため池状態となっていました。沢水が豊富なためか水質は良好であるため、地域で自然観察会や希少生物保全の場として活用できないか、専門家などにも相談して検討を重ねてきました。そこで、林道整備でも使用した新型土のうの技術を活かして「棚田」と「ビオトープ池」として整備することに決定し、作業を進めています。

○良かった点や苦労した点

コロナ渦でイベントを開催するという難しさを思い知りました。それでも多くの参加者の方と感染症予防を徹底して、コミュニケーションを取りながら共に汗をかくことができ、夢ファールならではの達成感を味わうことができました。

目指していた2度目のイベント開催が難しくなったため、「地域づくり意見交換会」として、市の地域おこし協力隊の方や地域活動に取り組んでいる専門家の方との交流会を開催しました。高校生が地域のためにできること、地域から求められていることなどを再確認することができ、広い視野での地域デザインの手法などを学ぶことができました。

○これからの展望

これまでの関東ふれあいの道などの保全活動に加えて、令和3年度はビオトープ池と棚田周辺の整備を進めていきます。実施にあたっては2～3回程度の協働イベント開催を目指し、より多くの市民を巻き込みながら行いたいと思います。

特に希少生物や在来生物の把握を意識し、完成後には速やかに繁殖や増殖につなげていければと考えています。

○その他

個体数が減少し保全が必要となっていたり、かつて大平山周辺で見られていた生き物や植物（在来種）などの情報があれば情報をお寄せください。